

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月13日（日）午前10時35分～11時45分
場 所 富田小学校 体育館
出席者 富田小学校区児童保護者 37名、富田小学校長・教頭、
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 中学校での部活動について、尚徳中学校の2年生や3年生が陽明中学校に移った時に、残り1年間だけ別の部活動を全員が選ぶことになるのか、前倒しで陽明中学校の部活に混ぜてもらえるようなことは考えているのか。

市教委 3年生で急に違う部活動に入るというのもなかなか難しいと思う。6月19日から奥越地区の大会があるが、3年生にとっては最後の大会になる。このあたりも協議の部分になってくると思う。例えば、統合前の1年生の時から、尚徳中学校には無く陽明中学校にある部活動に参加したい、という場合は検討していく必要がある。現在、人数は少ないが一緒に競技をしたいと合同練習している市内中学校もある。この場合は保護者の送迎が必要となるが、学校同士で検討していただき、教育委員会もできるだけ協力させていただきたい。子どもたちが、3年生になった時、しっかりと最後の部活動で締めくくれるように、前から準備しておく必要があると思う。

参加者 再編に係る取組等のページ（10ページ）に、「阪谷小学校の全児童が富田小学校に通学します。統合までに、事前交流を行い」とあるが、どれくらいの頻度で、どれくらいのスパンで交流を行うのか。また、交流の前倒しなどは、どの程度考えているのか。

市教委 乾側小学校の例では、再編が急だったため、1年間の準備期間であった。今回「案」がとれれば、早い段階で準備委員会を設置できるのではないかと考える。ある程度の期間をかけて、交流ができるのではないかと考える。乾側小学校では1年間で6回の子ども同士の交流を行った。最初から長い時間だと子どもに負担になるため、最初は短い時間からとし朝の会から2時間目まで、後になれば時間を長くし、給食を一緒に食べたり、休み時間も遊んだりと交流を行ってきた。その結果、小さい子はすぐに慣れ親しむことができたし、再編後も不安を抱えることなく学校に通っている状況である。

参加者 クラス編成は、尚徳中学校から陽明中学校に行く全員が一緒になるのは不可能かと思うが、どのようなクラス編成になるのか聞きたい。生徒会・委員会・クラブ活動の長が前年度の2年の時に決まると思うが、3年になってから陽明中学校に行った時に、それらがどのように決まっていくのか聞きたい。

市教委 1点目のクラス編成だが、乾側小学校の例だと、準備委員会の中に両校の教頭が入っている。今後準備委員会では、両校の教頭に入ってもらい、クラスの編成については均等に分けるのか、少し多めに分けるのか考えていく。例えば、資料7ページにあるように令和6年度の尚徳中学校の生徒は66名いる。陽明中学校の生徒は306名で、その時の陽明中学校だけのクラスだと1年生は4クラス、2年生は4クラス、3年生は3クラスになるため、約60名を1学年平均すると20名となる。「20名全部入れてしまう」「それは多いのではないか」「では10名ずつにしましょう」ということを準備委員会の中で、学校同士の協議や保護者の意見も聞いて進めていく。そういう点での保護者の不安も取り除いていきたいと思っている。

生徒会のことについても同じようなことが考えられると思う。準備委員会の中で、例えば、前年度に生徒会長・副会長を決める時に、事前交流の中で生徒会の総会を一緒に開催するというのも一つの方法であると思う。そういうことも含めて、準備委員会で、保護者の方の不安や生徒にとって不利になることがないように進めていきたいと思う。

参加者 登下校の負担軽減について、中学校が先に再編されるが、校区でいうと広範囲になるが、スクールバスが子どもたちを集めていくのに、どのように考えているのか教えて欲しい。集まる場所までが遠い子どももいると思う。

市教委 どのような方法がこの地区に一番ふさわしいのかということ、学校・保護者の方と十分に相談させていただきたい。ドア to ドアというなるべく歩く距離が短いようにという方法もあるし、どこかに集まってもらう、極端に言えば尚徳中学校に集まってそこからということもあるし、各公民館、各集落のどこかということも考えられる。どちらも、良いことも心配なこともあると思う。ルートや停留所など考えなくてはいけないことが多い。そういうことも十分に相談しながら進めていくので、一緒に良い方法を考えていきたい。

市教委 私は、富田小学校へのスクールバス、土布子、下唯野の二つともに乗せていただいた。どのような状況であるのか、富田だけでなく、上庄や勝原、六呂師、和泉にも行ってきた。どのように通学しているのか、自分で体感して、考えていくようにしている。市役所に毎日通っているが、1週間に

2回程度違う地区を回っている。そうすると自分で感じられることがある。私の仕事は、教育長室に座っていても、半分もできないので、できる限り皆さんと一緒に考えていきたいと思う。

生徒会の話についても、できる限り早く準備をスタートしたい。課題は、次から次へと出てくると思う。それらを検討して対応し、スタートする時には、上手くいくという確信を持って進めたい。また、実施段階での改善点もあると思うが、そういう部分も丁寧に対応していきたい。小さいことでも聞かせていただければと思う。

参加者 スクールバスについて、富田小学校区から陽明中学校に通う場合、自転車通学の子も出てくるのか。学校までの距離がどれくらいあるのかも分かっているが、どの地区の子が自転車通学になるか分かっているか。

市教委 文部科学省の基準では通学距離が6キロとなっているが、それが全てではないと思っている。どこまでが自転車通学になって、どこからがスクールバスの対象になるかというところまでは正直把握していない。地区として全てスクールバスで送迎して欲しいという要望があれば、準備委員会の中で検討・協議して進めていきたい。今ここで線を引くということではないので、ご理解をいただきたい。

参加者 2ページの地域性を生かすということで、縦軸・横軸の話があり、すごく良いことだと思うが、具体的にはどんなことが考えられるのか。

市教委 私は大野市の規模について、プラスに、積極的に捉えている。今、中学校が五つあり、それを縦軸とすると、尚徳中学校区があって、富田小学校と阪谷小学校が一緒になり小中の縦の連携を行っている。教員の話合いと研修が中心となっているので、まだまだ、小中の連携はできている。横軸は、タブレットなども十分に駆使すると、小学校同士、中学校同士の対応もできる。実際、小規模校の小山小学校と阪谷小学校がリモートで授業を一緒にしている。また、生徒会の総会なども、リモートでやればお互いの雰囲気がよく分かるのではないかと思うし、生徒会の選挙についても、来年度を見越して一堂に会さなくてもできる。授業の交流などでもできている。積極的にメリットや強みを生かしていき、大野の教育環境が外からもうらやましがられるように、自分たちも誇りをもって取り組めるように、がんばっていききたいと思う。そのような時に保護者からの意見も必要であり、子どもたちの願いも聞きながらやっていきたい。

市教委 意見交換会を全部で41カ所行い、その時の議事録も富田地区であれば富田地区に回覧しHPにも掲載している。検討委員会も全てオープンに開催し、報道にもその都度、情報提供をさせていただいた。その中で、皆さんが積極的に情報を得て、それぞれさまざまな機会にお話をしていただけ

たのでは、という気持ちを持っている。急にポンと資料を出して「どうでしょうか」と言ってもなかなか難しいと思う。市民の皆さん全員の目に見えるように、少しずつ着実に進めていきたいと思っている。皆さんはさまざまな思いがあると思うが、「しっかり進めてくれよ、子どもたちのために」というメッセージを、今ここで受け取っていると感じている。

参加者 保護者の負担軽減について、学用品の購入の際の経費の補助をすることだが、再編になれば、今小学校の制服は一緒だと思うが、中学校は学校によって違い、うち履きなども違う。体操服は難しいかもしれないが、うち履きや制服に関しては、今後統一していくことも考えないのか。

市教委 大野市全体を統一したらどうかということか。

参加者 例えば、中学校だったら、尚徳・和泉が陽明に行くのであれば陽明に揃えることや、最終的には統一されればと思う。実際靴を買いにいくと、各学校によって、うち履き外履きとさまざまな物があるので、一緒にすることも検討していただければと思う。

市教委 これから先を見通した場合には必要になっていくと思う。計画案では令和6年度ということで期間的にも、大野市全体での統一を議論するには足りないかもしれない。市の補助があっても、「せっかく着ている体操服だから、もったいない」という意見もある。それは、「使っても構わない」という意見だと思う。両学校の校長が協議をして使用することは可能。ただ、子ども自身が、自分たちだけが違うものを着ているのが嫌だと思ってしまうのはいけないと考えており、そういう意味での補助も考えさせていただいている。準備委員会に保護者の方も入っていただくので、いろいろ協議しながらしっかり進めていきたいと思う。

④閉会のあいさつ（事務局長）